

## 山形県教育委員協議会の概要

### 1 日 時

令和7年6月10日（火）14時45分～15時13分

### 2 場 所

山形県庁舎教育委員室

### 3 意見交換テーマ

キャリア教育の充実について

### 4 主な発言要旨

- ◇ キャリア教育の一環として本県の普通科高校で取り組まれている「小学校教員体験セミナー」は、他県の方々からも注目を浴びていると感じている。これを体験セミナーだけで終わらせず、将来、地元大学に入学した際、履修単位として認めるなど高校と大学が連携することで、地元定着にもつながるのではないかと。（和田委員）
- ◇ インターンシップの受入先について、子ども達の選択肢を増やすため、例えば、医療機関等での受入れを増やすことで、医師などの医療従事者を目指す子ども達が刺激を受ける機会も増えるのではないかと。（和田委員）
- ◇ スペシャリストの専門的な話を聞くことも大切であるが、より身近な地元企業の話の聞くことも大切であると考え、両方を知った上で、自分の生き方や社会での役割を考え、将来の選択を行っていくことが大切と考える。（丹治委員）
- ◇ 今年から県が実施する「教育支援パートナーシップ推進事業」は、教育支援活動に意欲的な企業と学校が連携できる基盤の整備に加え、双方をつなぐコーディネーターを配置することで、企業と学校がよりスムーズに連携できるものと思われる、これにより、キャリア教育の充実につながる事業になるよう期待している。（丹治委員）
- ◇ 職業に対する夢、あこがれ、希望を醸成するには、様々な映像コンテンツが重要であると感じており、将来の職業選択につなげる一つのツールとして効果的な活用を考えていければと思う。（手塚委員）
- ◇ 社会で働いていく上で、勉強だけではなく、人間力も大切であることを教えていくべきである。働くとはどのようなことか、社会に貢献することの意義なども学べるようなキャリア教育が必要と考える。また、20～30年後には今の職種とは異なる職種が出てくることや、中にはなくなる職種も出てくる可能性があることも大事な視点になってくると思う。（小関委員）

- ◇ キャリア教育は、子どもの発達段階に合わせ、順を追って取り組んでいくべき  
と考える。小学生段階では世の中に様々な職業があることを知り、中学生段階で  
は自分の適正に合わせて将来を考えながら徐々に絞り込んでいくことが効果的  
と考える。(工藤委員)
- ◇ 子どもは大人から褒められることや、自分で工夫して上手にできたことに対し  
て興味関心が向き、その後のやる気の種につながっていくと感ずるため、小さい  
頃の体験活動が大切と考える。(工藤委員)